



# モーツァルト室内管弦楽団 第126回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 126. Regulärkonzert

2009年  
〈没後200年記念 ハイドン・シリーズ〉第7回

ハイドン / *Joseph Haydn*

## 《天地創造》

„*Die Schöpfung / The Creation*“

2008年11月8日(土) 午後2時 ■ いずみホール

Samstag, 8. November, 2008, 14:00Uhr. *Izumi Hall*, Osaka

- 主催：モーツァルト室内管弦楽団
- 協賛：いずみホール(財団法人 住友生命社会福祉事業団)
- マネジメント：大阪アーティスト協会 E-mail:artists@gol.com

〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-25-909 Tel 06-6135-0503

# モーツァルト室内管弦楽団

## 第126回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester/126. Regulärkonzert

2008年11月8日(土) 午後2時 ■いずみホール

Samstag, 8. November, 14. Uhr · Izumi Hall

<sup>2009年</sup>  
〈没後200年記念 ハイドン・シリーズ〉 第7回

## ハイドン：オラトリオ《天地創造》

Joseph Haydn : Oratorium „Die Schöpfung / The Creation“

(日本語字幕付／制作：門 良一)

天使ガブリエル、イヴ：木村 能里子(ソプラノ)

天使ウリエル                   ：西垣 俊朗(テノール)

天使ラファエル、アダム：松下 雅人(バス)

終曲のアルト独唱               ：井村 園子

合 唱：モーツァルト記念合唱団

合唱指揮：益子 務

管 弦 楽：モーツァルト室内管弦楽団

コンサートミストレス：林 泉

コンティヌオ・チェンバロ：田中 実子

指 揮：門 良一

## 第1部 混沌、第1日～第4日

### Erster Teil : Chaos ; Erster Tag ~ Vierter Tag

- No. 1 序曲 混沌の描写
- No. 2 レシタティーヴォと合唱（ラファエル、合唱、ウリエル）「はじめに神は天と地を造られた」
- No. 3 アリア（ウリエル）と合唱「今や聖なる光の前で邪悪な暗闇の影は消え去った」
- No. 4 レシタティーヴォ（ラファエル）「神はつぎに空を造られ」
- No. 5 合唱つき独唱（ガブリエル、合唱）「驚きをもってこの奇蹟を見た天使たちは」
- No. 6 レシタティーヴォ（ラファエル）「また神は言われた『天の下の水は一所に集まり』」
- No. 7 アリア（ラファエル）「泡立つ波がうねり、激しく海は荒れる」
- No. 8 レシタティーヴォ（ガブリエル）「また神は言われた『地に青草と種を作る草とが生えよ』」
- No. 9 アリア（ガブリエル）「いまや野の新緑が目に喜びを与え」
- No. 10 レシタティーヴォ（ウリエル）「そうして天使たちは第3日目のみわざを告げ」
- No. 11 合唱「弦を合わせよ、豎琴をとれ」
- No. 12 レシタティーヴォ（ウリエル）「神はまた言われた『天空に光体があり昼を夜と区別できるように』」
- No. 13 レシタティーヴォ（ウリエル）「いま光に満ちて太陽は輝き昇る」
- No. 14 三重唱と合唱「天は神の栄光を語り、大空はそのみ手のわざを告げる」

## 第2部（前半） 第5日

### Zweiter Teil (1.Hälfte) : Fünfter Tag

- No. 15 レシタティーヴォ（ガブリエル）「神はまたこう言われた『水の中に動く生き物が多く生まれよ』」
- No. 16 アリア（ガブリエル）「力強い翼で誇らしげに鷲は舞い上がり」
- No. 17 レシタティーヴォ（ラファエル）「そして神は鯨をはじめとするすべての生きとし生けるものを造られ」
- No. 18 レシタティーヴォ（ラファエル）「天使たちは不滅の豎琴をかき鳴らし、第5日目の奇蹟を歌った」
- No. 19 三重唱と合唱「優美な姿で新緑に覆われ、起伏ゆたかに丘はたたずむ」

\* \* \*

## 第2部（後半） 第6日

### Zweiter Teil (2.Hälfte) : Sechster Tag

- No. 20 レシタティーヴォ（ラファエル）「また神は言われた『地に各種の生きものが現れよ』」
- No. 21 レシタティーヴォ（ラファエル）「大地のふところはただちに開かれ」
- No. 22 アリア（ラファエル）「いま天は光に満ちて輝き」
- No. 23 レシタティーヴォ（ウリエル）「神は自分の姿に似せて人間を造られ」
- No. 24 アリア（ウリエル）「威厳と気高さをそなえ、美と力と勇気をさずけられ」
- No. 25 レシタティーヴォ（ラファエル）「神はそのなしたまえるすべてのみわざを見たまいて非常に満足された」
- No. 26 合唱と三重唱「大いなるみわざはなしとげられた」

## 第3部 第7日

### Dritter Teil : Siebenter Tag

- No. 27 レシタティーヴォ（ウリエル）「薔薇色の雲から甘い響きとともに」
- No. 28 二重唱と合唱（イヴ、アダム、合唱）「おお主なる神よ、天と地はあなたの恵みに満ちあふれている」
- No. 29 レシタティーヴォ（アダム、イヴ）「造り主に感謝を捧げ、われらの最初のつとめは果たされた」
- No. 30 二重唱（アダム、イヴ）「いとしい妻よ、おまえがそばにいれば」
- No. 31 レシタティーヴォ（ウリエル）「おお幸せな夫婦よ」
- No. 32 合唱「すべての声よ、主に向かいて歌え」

## ハイドン：オラトリオ《天地創造》

1791年から1795年にかけての2回にわたるロンドン滞在中、ハイドンはヘンデルの《メサイア》をはじめとするオラトリオの上演に接し、非常な感銘を受けた。自分もあのような作品を書きたいという意欲に燃えたハイドンは、当地でミルトンの「失樂園」にもとづく「天地創造」と題する英語の台本を入手した。それはもともとヘンデルのために書かれたが作曲されずに終わったと伝えられるものであった。ハイドンの持ち帰ったその台本にヴァン・スヴィーテン男爵が手を入れドイツ語に訳した（男爵はモーツァルトの最も有力なパトロンであり、その葬儀を取り仕切った人として知られる。彼はハイドンが「天地創造」の作曲に集中して取り組めるよう貴族たちから資金を集めたし、またハイドンの次のオラトリオ「四季」の台本を書いた人でもある）。

作曲は1797年に着手され翌年完成された。非公開の初演が同年4月に行われ、公開の初演は翌1799年3月19日に行われた。たちまち大評判となり、その後急速にヨーロッパ各地で上演されるようになった。

内容は旧約聖書の創世記に書かれた、7日間にわたる神の天地創造の物語である。全曲は3部からなり、第1部は天地、陸と海、太陽と月と星、植物の創造、第2部はさまざまな動物と最後に人間の創造、第3部は最初の人間であるアダムとイヴについて描かれている。第1部と第2部では3人の天使、ガブリエル、ウリエル、ラファエルによって語り継がれ、天使たちの合唱が唱和する。第3部では語り部はウリエルひとりとなり、アダムとイヴの二重唱が中心となる。

ハイドン得意の自然描写が随所に見られ、日の出、雷鳴や雨、雪の描写、鳥の鳴き声、ライオンの咆哮など、独特の素朴な魅力に富んでいるが、中でも冒頭の「混沌の描写」は当時としては大胆な前衛的手法が用いられ、スケールの大きさを感じさせる。合唱の部分ではヘンデルのスタイルが忠実に受け継がれており、特に各部の終わりの合唱は「メサイア」を彷彿とさせる堂々たるものである。

しかし、この曲で最も目を惹くのはモーツァルトの影響が顕著なことであろう。第9曲のガブリエルのアリアは「ドン・ジョヴァンニ」第2幕のドン・オッターヴィオのアリアに似ているし、第26曲の合唱には含まれた三重唱は管楽器だけの前奏で始まり、「コジ・ファン・トゥッテ」第2幕の「庭園の二重唱」を思わせる。第3部の前奏や、終曲の合唱のはじめの部分は「魔笛」にそっくりである。管弦楽法は数年前の「ザロモン交響曲」（ロンドンで初演された第93～104番の交響曲集）のレベルから格段に進歩しており、特に不得手だったクラリネットの用法に習熟して、オーケストラ全体の音色が非常に豊かなものになっている。大きく見れば、ハイドン独特の健康でからっとしたユーモア、エンディングへ向かっての万人の共感を呼び起こす高揚感はそのままだけに、モーツァルトの影響を感じさせる陰影のあるしっとりとした情感が随所に加わっている。「天地創造」に着手した1797年はモーツァルトが死んで6年後であり、ハイドンはモーツァルトのスコアを大いに研究したものと思われる（モーツァルトが生前、ハイドンを「コジ・ファン・トゥッテ」の試演におそらくは「魔笛」のそれにも招いたことはよく知られている）。モーツァルトに多大な影響を与えはしても、自らはひたすら我が道を行くと見えたハイドンが、晩年になってなお後輩から多くを学び取ろうというこの境地は正に驚くべきものである（モーツァルトはハイドンより24歳年下である）。

「天地創造」完成時、ハイドンは66歳になっていた。ヘンデルを範とし、モーツァルトの様式を消化し、そしてハイドン本来の得意の領域に磨きをかける、正に驚嘆すべきエネルギーである。「天地創造」と次作「四季」の2大オラトリオによって、バロック様式をも包含した古典派音楽の集大成をやったのけたのである。これはモーツァルトもやろうとしてできなかった（「レクイエム」も「ハ短調大ミサ」も未完に終わっている）。さらにベートーヴェンやロマン派にも大きな影響を与えたハイドンこそ西洋音楽史の主流であり正統であるといえよう。

（《天地創造》が演奏された1999年7月の第91回定期演奏会、および2000年12月の第98回定期演奏会のプログラムの解説を再掲載したものです。）

### 第127回定期演奏会

〈創立40周年記念シリーズ〉第1回

〈モーツァルト・オペラシリーズ〉第8回

《ドン・ジョヴァンニ》K.527 (全曲/演奏会形式上演/日本語字幕付)

ドン・ジョヴァンニ：マーク・ウォルターズ レピッコロ：松森 治  
 ドン・アナ：津山和代 ドン・オッターヴィオ：二塚直紀  
 ドナ・エルヴィラ：野村ゆみ 騎士長：木川田 澄  
 ツェルリーナ：石橋栄実 マゼット：ヤオ・インジェン (姚盈任)  
 合唱：モーツァルト記念合唱団 (合唱指揮：益子 務)  
 指揮：門 良一

2009年1月25日(日) 午後3時●いずみホール

### 第128回定期演奏会

〈モーツァルト室内管弦楽団創立40周年記念シリーズ〉第2回

2009年  
 〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉第8回

2009年3月28日(土) 午後2時●いずみホール

ハイドン

交響曲 第92番 ト長調《オックスフォード》

チェロ協奏曲 第2番 ニ長調

交響曲 第94番 ト長調《驚愕》

チェロ：河野文昭 指揮：門 良一

## 『ハイドンを忘れてもらっては困ります』

### 門 良一／モーツァルト室内管弦楽団による〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉 全11回・記録&予定

#### 第1回 2007年7月15日 ムラマツ・リサイタルホール 定期サロンコンサート〈クライネ・モーツァルト〉第74回例会

ハイドン／交響曲 第6番 ニ長調 Hob. I-6《朝》  
ハイドン／交響曲 第7番 ハ長調 Hob. I-7《昼》  
ハイドン／ヴァイオリン協奏曲 第1番 ハ長調  
ハイドン／交響曲 第8番 ト長調 Hob. I-8《晩》  
ヴァイオリン：菊本 恭子

#### 第2回 2007年9月30日 いずみホール 第121回定期演奏会〈モーツァルトとハイドン〉その1

モーツァルト／交響曲 第39番 変ホ長調 K.543  
ハイドン／トランペット協奏曲 変ホ長調 Hob. VIIe-1  
モーツァルト／《後宮よりの誘拐》K.384より  
コンスタンツェのアリア《私は恋をしていました》  
ロッシーニ／《セヴィリヤの理髪師》より  
ロジーナのアリア《今の歌声は》  
ハイドン／交響曲 第103番 変ホ長調 Hob. I-103  
《太鼓連打》  
トランペット：大西 由起、ソプラノ：成毛 未来

#### 第3回 2007年12月2日 いずみホール 第122回定期演奏会

ハイドン／オラトリオ《四季》Hob.XXI-3(全曲)  
ハンネ(ソプラノ)：木村能里子  
ルーカス(テノール)：西垣 俊朗  
シモン(バス)：井原 秀人  
合唱：モーツァルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務)

#### 第4回 2008年3月2日 ムラマツ・リサイタルホール 定期サロンコンサート〈クライネ・モーツァルト〉第75回例会 〈シュトルム・ウント・ドラंक(疾風怒濤)時代〉

ハイドン／交響曲 第44番 ホ短調 Hob.I-44《哀悼》  
ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob.VIIb-1  
ハイドン／交響曲 第45番 嬰へ短調 Hob.I-45《告別》  
チェロ：山本 彩子

#### 第5回 2008年6月28日 ムラマツ・リサイタルホール 定期サロンコンサート〈クライネ・モーツァルト〉第76回例会 〈モーツァルトとハイドン〉その2〈ハイドンとモーツァルトのホルン三昧〉

ハイドン／交響曲 第31番 ニ長調 Hob.I-31《ホルン信号》  
カール・シュターミッツ／フルート協奏曲 ト長調  
モーツァルト／ディヴェルティメント(フルート、オーボエ、  
ファゴット、4つのホルンと弦楽のための)ニ長調 K.131  
フルート：大江 浩志  
ホルン：垣本 昌芳、垣本奈緒子、佐藤 明美、小椋 順二

#### 第6回 2008年9月27日 いずみホール 第125回定期演奏会〈モーツァルトとハイドン〉その3

モーツァルト／交響曲 第36番 ハ長調 K.425《リンツ》  
ハイドン／ピアノ協奏曲 ニ長調 Hob.XVIII-11  
モーツァルト／コンサートアリア《私は行く、でもどこへ?》K.583  
モーツァルト／コンサートアリア《偉大な魂と高貴な心》K.578  
モーツァルト／《後宮よりの誘拐》K.384より コンスタンツェのアリア《あらゆる喜びが》  
ハイドン／交響曲 第96番 ニ長調 Hob.I-96《奇蹟》  
ピアノ：小田切美穂  
ソプラノ：西田真由子

#### 第7回 2008年11月8日 いずみホール 第126回定期演奏会

ハイドン／オラトリオ《天地創造》Hob.XXI-2(全曲)  
天使ガブリエル、イヴ(ソプラノ)：木村能里子  
天使ウリエル(テノール)：西垣 俊朗  
天使ラファエル、アダム(バス)：松下 雅人  
合唱：モーツァルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務)

#### 第8回 2009年3月28日 いずみホール 第128回定期演奏会

ハイドン／交響曲 第92番 ト長調 Hob.I-92《オックスフォード》  
ハイドン／チェロ協奏曲 第2番 ニ長調 Hob.VIIb-2  
ハイドン／交響曲 第94番 ト長調 Hob.I-94《驚愕》  
チェロ：河野 文昭

#### 第9回 2009年4月29日 いずみホール 第129回定期演奏会

ハイドン／交響曲 第88番 ト長調 Hob.I-88  
ハイドン／協奏交響曲 変ロ長調 Hob.I-105  
ハイドン／交響曲 第101番 ニ長調 Hob.I-101《時計》  
ヴァイオリン：釋 伸司  
チェロ：日野 俊介  
オーボエ：(未定)  
ファゴット：佐伯 利之

#### 第10回 2009年9月13日 いずみホール 第131回定期演奏会

ハイドン／交響曲 第100番 ト長調 Hob.I-100《軍隊》  
ハイドン／交響曲 第104番 ニ長調 Hob.I-104《ロンドン》ほか

#### 第11回(アンコール公演) 2009年12月 いずみホール 第132回定期演奏会

ハイドン／オラトリオ《四季》Hob.XXI-3(全曲)


**門 良一 ●指揮**

Ryoichi Kado, Dirigent

1939年大阪生まれ。フルートを曾根亮一氏に、指揮法を青山政雄氏に師事。62年京都大学理学部卒業、67年同大学院修了。70年同志とともにモーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。87年、モーツァルトのピアノ協奏曲全27曲、交響曲全74曲の連続演奏完結に対し、モーツァルト室内管弦楽団とともに第5回藤堂音楽賞を受賞。

現在、NHK大阪文化センター、同神戸文化センター「モーツァルトを聴く」講師。京都産業大学教授。


**木村能里子 ●天使ガブリエル、イヴ、ソプラノ**

Noriko Kimura, Gabriel &amp; Eva, Sopran

大阪生まれ。1981年武庫川学院女子大学音楽学部在学中ドレスデン国立歌劇場オペラスタジオのオーディションに合格し、5年契約を結ぶ。1985年ドレスデン国立歌劇場ソリストとして正団員契約を結び、ゼンパーオーバー修復完成公演に出演。さらにバッハ生誕300年記念公演に出演し、その演奏は全ヨーロッパ及び日本で放送された。1986年ヴァイマル国民劇場ソリストとして正団員契約を結ぶ。一方、古楽アンサンブルのソリストとしても活躍。1989年インスブルック古楽週間における演奏はオーストリア放送協会により、また1990年レーゲンスブルック古楽週間における演奏はバイエルン放送協会によりそれぞれ放送、さらに1996年にはストラヴィンスキーならびにシュールホフのオーケストラ歌曲をCDレコーディング。オーケストラとの共演も数多くリート歌手、宗教音楽のソリストとしてもヴァイマルを拠点として活発に活動。現在ヴァイマル・リスト音大講師。益子務、リタ・シュトライヒ、ウォルター・ムーア、ノーマン・シェトラの各氏に、またバロック唱法をルネ・ヤコブス氏に師事。

モーツァルト室内管弦楽団との縁は深く、1988年の東ドイツ演奏旅行のソリストとして現地参加。また、1992年の《戴冠式ミサ》、1997年のシューベルト《ト長調ミサ》、2007年のオラトリオ《四季》のソリストとして定期演奏会に出演。


**西垣俊朗 ●天使ウリエル、テノール**

Toshiro Nishigaki, Uriel, Tenor

大阪音楽大学大学院修了。在学中よりカンタータやオラトリオなどの宗教曲の演奏に欠かせない歌手として活躍。特にバッハの受難曲でのエヴァンゲリストでは高く評価されている。87年と88年にはクリストファー・ホグウッド指揮でヘンデルの「メサイア」とモーツァルトの「戴冠式ミサ」を歌う。オペラでも関西二期会を代表するリリック・テノールの一人として「魔笛」、「セヴィリアの理髪師」、「コジ・ファン・トゥッテ」、「愛の妙薬」等で主役を務めるほか、「第九」、「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」などのソリストとして各地で活躍している。

昭和59年度神戸市文化奨励賞受賞。平成6年度兵庫県芸術奨励賞受賞。関西二期会会員。


**松下雅人 ●天使ラファエル、アダム、バス**

Masato Matsushita, Raphael &amp; Adam, Bass

国立音楽大学音楽学部声楽科首席卒業及び同大学院音楽研究科声楽専攻オペラ修了。矢田部賞受賞、読売新人演奏会、桃華楽堂御前演奏会に出演。ロータリー財団奨学生としてモーツァルトテウム音楽院に留学。その後、ボン歌劇場専属バス歌手として契約を結び、エディター・グルヴェローヴァ、ルネ・コロ、ピエロ・カップチリ等の著名な演奏家と共演、200回以上の舞台を踏み、新聞・雑誌等で好評を得る。帰国後、関西二期会オペラを中心に「ワルキューレ」ファンディングほか、日生劇場オペラ「後宮からの逃走」オスミン、琵琶湖ホール「ドン・カルロ」、大阪フェスティバルホール「夕鶴」惣と、と様々な役柄に出演、「魔笛」ザラストロは指揮者・演出家から絶大な信頼を得、全国各地で好演、バス歌手として最も活躍している一人である。また「第九」「メサイア」等のソリストとしても定評がある。これまでに、若杉 弘、飯守泰次郎、小林研一郎、沼尻竜典、現田茂夫等と共演。最近では、2007年10月、東京交響楽団サントリーホール定期演奏会、飯森範親指揮ヘンツェ作曲「ルプバ」の日本初演に老人役として出演し、各方面より高い評価を得たのは記憶に新しい。莊 智世恵、ルドルフ・クノール、宮廷歌手ハンス・ゾーティンの各氏に師事。豊橋市文化振興特別賞受賞。日本演奏家連盟会員、関西二期会会員、名古屋音楽大学准教授。愛知県立芸術大学講師。名古屋二期会研究生講師。近年では後進の指導にも力を注ぎ多くの優秀な人材を輩出し、門下生による「Felice」「Kinder Baren」を主催している。



**モーツァルト室内管弦楽団 Mozart - Kammerorchester**

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、38年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。'91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで'90年からは大阪いずみホールを本拠として定期演奏会を、また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に16回を数えている。海外では'88年にドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス ('85、'87年)、シプリアン・カツァリス ('93、'94年)、ペーター・ダム ('83、'86、'88、'98、'00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル ('86年)、ライナー・キュッヒル ('90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。'91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲などで活発に協演するほか、'93年には堺シティオペラとの協力による「モーツァルト・オペラシリーズ」を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。'06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。

**モーツァルト室内管弦楽団 / 出演メンバー**

**コンサートミストレス ● 林 泉**

第1ヴァイオリン	林 泉	幣 晴代	コントラバス	石川 徹	コントラバ	小南佐和香
	中川 衛子	池内美紀		中村公美	ホルン	細田昌宏
	大西秀朋	道幸明美	フルート	大江浩志		小坂智美
	北村奈美	灘儀育子		久保田裕美	トランペット	大西由起
	森住憲一	白木原有子	オーボエ	本庄ちひろ		森下智念
	森住憲一	松井紀子		戸田めぐみ	トロンボーン	鈴木 智
	菊池優理	池村佳子	クラリネット	忽那有紀子		池田千紗
	中野瑞己	岡尾有紀		高橋 博		三田博基
第2ヴァイオリン	本多智子	角南麻里子	ファゴット	門 小夜子	ティンパニ	福井 鈴
	清水めぐみ	三宅香織		佐伯利之	チェンバロ	田中実子
	川島多美子			淡島宏枝		
	原田潤一					



**モーツァルト記念合唱団 (合唱指揮●益子 務)**

**Mozart-Choral Ensemble (Chor-Dirigent / Tsutomu Masuko)**

「本番のステージで柔軟に音楽をすることのできるプロフェッショナルなコーラスがほしい」という、モーツァルト室内管弦楽団の要望を受け、特別に編成された合唱団。女声は堺シティオペラの選抜メンバー(若手プロ)を中心に、男声は合唱王国関西の著名合唱団の指揮者、

バートリーダー・クラスに参加を要請、1991年7月末に発足し、益子 務氏の指揮のもとに練習を開始した。同年12月モーツァルト室内管弦楽団のモーツァルト没後200年記念第48回定期演奏会で「レクイエム」を協演、それ以後、ミサ、オラトリオ、オペラなどで毎年協演し、中でもモーツァルト「ハ短調大ミサ」、「救われたベトゥーリア」、「イドメネオ」、ハイドン「天地創造」、「四季」、ヘンデル「メサイア」、ベルリオーズ「キリストの幼時」などは絶賛を浴びた。93年には初の単独自主公演としてジャンヌ・ワグナー氏を客演指揮者に迎え「ロジェ・ワグナー・メモリアルコンサート」を開催、大好評を得た。98年、00年の2回、ベルギー・フランドル政府の招きにより文化交流使節としてベルギー演奏旅行を行い、大成功を収めた。00年、創立10周年記念としてCD [ロッシーニ：小荘厳ミサ] をリリース。

**モーツァルト記念合唱団 / 出演メンバー**

**合唱指揮 ● 益子 務**

ソプラノ	植木 奏子	大下 ゆき	川森有希子	銭田 美幸	田中めぐみ	中田 佳代	平芳真寿美
	御池あゆみ	森内美佳子	山本 真紀				
アルト	以倉安希子	井村 園子	大矢喜久子	金田智津子	塩見 典子	中口真由美	中根 佳江
	林 理恵	森田 裕子					
テノール	居谷 洸	大當 康博	河合 裕吾	桑田 明和	陶山 悟嗣	谷口 幸伸	豊田 耕平
	豊田 千之	藤本 寛志	古川 完				
バス	小島 博	中口 悦史	二階堂哲雄	野村 透	林 龍太郎	ピーター・フィンケ	福原 幸一
	藤巻 恵	米岡 実	渡邊 守				
練習ピアニスト	岡田 千絵						
字幕オペレーター	横家 愛恵						

会 長 岡 本 道 雄 (京 都 大 学 名 誉 教 授)  
理 事 大 西 正 文 (大 阪 ガ ス 株 式 会 社 相 談 役) 谷 口 安 平 (京 都 大 学 名 誉 教 授)  
森 井 清 二 (関 西 電 力 株 式 会 社 顧 問) 吉 野 泰 生 (住 友 生 命 保 険 相 互 会 社 会 長)  
(50音順)  
顧 問 橋 下 徹 (大 阪 府 知 事 : 申 請 中) 平 松 邦 夫 (大 阪 市 長)  
伊 藤 郁 太 郎 (大 阪 市 立 東 洋 陶 磁 美 術 館 館 長) 梅 原 猛 (国 際 日 本 文 化 研 究 セ ン タ ー 顧 問)

法人会員 (50音順)

荒川化学工業	住友金属工業	日本通運京都旅行支店	三井住友カード
井上冷熱	住友精密工業	濱田プレス工藝	ワコー
大阪ガス	住友生命保険	林六	*
関西電力	住友倉庫	福山製紙	日本セルフ
クオーク	ダイキン工業	松下電器産業	
阪野商店	大同ケミカルエンジニアリング	丸山製紙	
サントリ	高松建設	丸山サービス	

個人会員 (入会順、敬称略)

松井繁一	安藤邦洋	藤原啓助	四宮孝郎	島村猛	千宗守
深田晴世	橋本太三	山本初代	三石武男	河原恭子	荒木陽子
河野幹雄	阿部由美子	馬場明和	内藤壽一	松井とも子	宮崎悦朗
河野奈津子	中川泰幸	阪野俊一	小西信一郎	得田栄蔵	栗原順子
福岡隆子	石上豊子	森明子	佐野廣子	平山昭邦	谷口勝昭
梅原一哲	村本孝夫	宮川泰濟	内田俊策	菱谷勝次郎	完倉正信
石本三千也	松本幸道	和田暁夫	神林恒道	足立宣治	野口祐三
田村眞也	笹川忠士	桑名孝子	岡野昌樹	東武次郎	野口外志子
竹村治彦	緒林桂子	石光正男	岡野恵津子	竹林大	森本武
岸田克己	碓井昭彦	松枝正明	杉浦和子	中谷庄八	小山浩
梅村博也	碓井みち子	松枝多加子	脇田修	豊田紘生	野原清秀
屋良己佐治	長井重龜	光成博次	多屋貞男	奥野哲久	大西理都子
國友正和	岸田多門	植田史子	野村透	平岡龍人	堀正二
梅田文一	能田豊	高杉方安	佐野雅祥	平岡禮子	中野勇
稲垣千代子	森内達治	川島弘章	今井安男	大西勇	松井基純
浮田俊太郎	宮井茂治	川島啓助	玉手隆子	飛田薫	松井香代子
荻野伊都子	祐野尚子	坂本綽子	野崎志朗	飯田祐子	山本春子
桑山弘	金定秀光	中井武司	橋本靖昭	森野多聞	山本道子
三谷郁子	金定嘉也	中井佐和子	冠大五	宮井芳子	和薬嘉夫
田中喬	中條澄	西森文彦	有賀熙雄	塩脇昭司	大磯隆一
天野康英	中嶋允子	岸田孝之助	佐野哲郎	塩脇祥子	中村多美子
三浦信一郎	福岡昭吉	豊田成子	小柳陽一	一木晃	細井提吉
水鳥敬夫	山本次郎	切畑敦詞	服部盛隆	岩崎弘一	大谷弘枝
渡辺優子	菅正徳	中東富佐子	田中四郎	河淵清子	
平川美津子	日高穂	金盛琢志	村西良彦	佐竹時子	

会 費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。

・法人会員につきましては年会費1口10万円です。

(有効期間は入会時より1年間です。)  
随時ご入会いただけます。

会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口に付き個人各1枚、法人各5枚)

・ご同伴者は10%割引となります。

・関連演奏会のご案内又はご優待を致します。

・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。

・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。